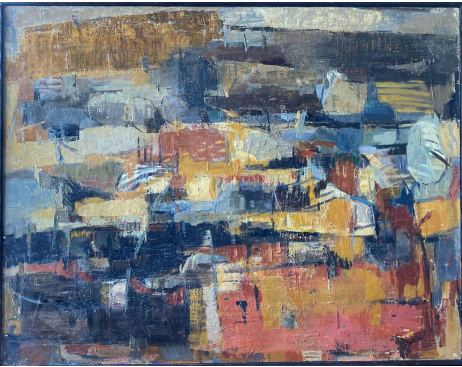


①	②	③
④	⑤	⑥



作品詳細

- 表紙の作品 「対話」 1971年 39歳 春陽会準会員推挙 1939×1121
- ①「裸婦」 1957年頃 25歳 裸婦講習会にて803×652
- ② 1964年頃 32歳 227×158
- ③「趨る」 1967年 35歳 1939×1121
- ④「ガスタンクのある風景」 春陽会初入選 1959年 27歳 909×727
- ⑤ 1963年 31歳 333×242
- ⑥「芸人の対話」 1971年 39歳 1939×1303

池田輝 (1932-2005)

1932年上田市黒坪に生まれる。
父は初代農民美術家中村寛。叔父は中村直人。
信州大学教育学部美術家卒。上小地区の小中学校美術教諭を53歳で退職後は上田女子短期大学にて2002年まで美術講師を務める。
27歳で春陽会初入選。42歳春陽会会員。
51歳春陽会第60回記念展賞受賞
2005年享年74歳

池田輝画業50年の草生期15年を振り返る 池田輝クロニクル第1期

上田市立美術館と梅野絵画記念館にて同時開催される、「上田クロニクル展」に合わせ開催する。当館は上記美術館に展示される池田輝の同時期の輝作品を追加展示し、作家の画業をより深く紹介する。展示するのは、20代後半から春陽会準会員となる39歳までの作品。高校時代から油絵を始めていたが、本格的に描き始めたのは25歳の頃。それまでは貧しく思うように画材を調達できなかったが、教職に就き更に結婚した後、油絵を描くという自由を手に入れた作家は惜しげもなく絵の具をキャンパスに乗せている。ため込んでいたあふれるイマジネーションを、手当たり次第次々とおおらかに具現化していく様が見て取れる。

美術教諭としての池田輝

池田輝を語るにはその画業だけではなく、教諭として青年に向き合った様が欠かせない。
サラリーは絵を描くためとドライなものではなかった。当時の様子は今なお教え子が多くを語る。美術教師の生き様だけではない。懐古伝から人を認め包み込んだ人生観が伝わってくる。それらが作品に現れている。
今回の展示は教職時代と照らし合わせると、上田北小学校、更埴中学校、称津（東部）中学校、丸子中学校、勤務時代作品である。

池田輝の美術館 ギャラリー輝

当館は池田輝の所蔵作品を展示する私設美術館です。
「俺の絵はどうするだ」との言葉とともに作品を託されました。絵は人に観てもらい完成すると思いつから、一念発起し父の絵をお披露目できるスペースを作りました。次は俺の番だと倉庫で足踏みする作品に背中を押され、無い知恵を絞りながら、仲間のサポートを受けながらどうにかやっています。永く続けるためには無理は禁物と、開館は土日だけです。ご不便おかけしますが、どうか末永くお付き合い下さい。 長男池田敏郎 長女高瀬麻美

池田輝クロニクル展

- 池田輝クロニクル第1期
油絵を本格的に描き始めた20代後半から、39歳で春陽会準会員となるまでの15年間
- 池田輝クロニクル第2期
準会員後42歳で春陽会員となり、春陽会記念展賞を受賞し、53歳で公立中学校を退職するまで。代表作「奏でる」「一人」「三人」「馬上の人」「出立」を残し朝日ジャーナルの表紙を飾ったのはこの期間
- 池田輝クロニクル第3期
教職退職後ヨーロッパスケッチ旅行を経て、モチーフにヨーロッパが加わる。どっしりとした人物像を更に極め、そして画業を閉じるまで。

色の詩人 池田輝の美術館 ギャラリー輝

〒386-1431 長野県上田市別所温泉1852-7
TEL070(8476)2573 mail : galerieteru@gmail.com
Web:https://banenokaze.com/teruikedai/

